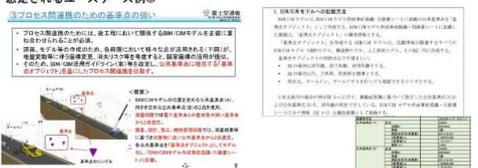
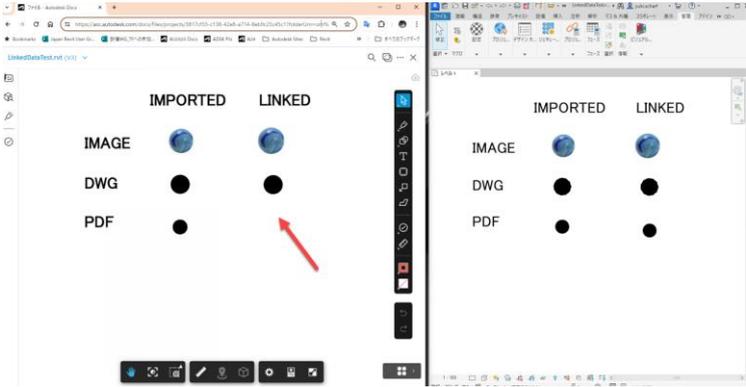


| 質問   | 回答   |
|--|--|
| Consumedファイルを作成するのは、各系どんな人を想定するとよいでしょうか。ProjectAdminが必要なため、設計者個々には付与しておらず、運用方法に困ることがあります。                    | 各社様運用方法だけでなく、関係者や組織体系が異なるため、1つのベストプラクティスをこたえることができません。事例紹介や現状のヒアリングなどを担当者へご相談ください。   |
| IFCのデータ統合の際、原点合わせはどのようにしますか？   | <p>IFCデータは書き出すCADソフトによってソフト内での原点の考え方が異なる可能性があり、IFC2x3までは、座標系の考え方がないため、モデル内で基点要素等を配置し、統合先で手動で位置を合わせるケースが多いかと思います。</p> <p>例えば、国交省でも土木ではBIM/CIMプロジェクト運用において、同様に基準点要素を配置させて位置合わせに運用するよう既定しています。これはIFC2x3までに座標によるソフト間の運用が対応できていないためです。</p> <div data-bbox="742 728 1220 996"> <p><b>IFC検定実施の背景</b><br/>想定されるユースケース例①</p>  <p>※第7回 BIM/CIM推進委員会資料より</p> <p>納品するモデルには基準点オブジェクトを2つ作成する<br/>基準点オブジェクトには引き継ぐべき属性情報を付与する</p> </div> <p>Autodesk BIMCollaborate内でモデルを統合する場合は、位置合わせを「変換」という機能で可能です。</p> <p>※変換という訳が、わかりにくいいため日本語訳を変更予定</p> <p>■参考記事：<a href="#">クリックしてリンクへ</a></p> <p>XYZと回転角度を数値入力、あるいはマニュアルによる位置合わせが可能です。</p> |
| 指摘事項は数が増えると階層化、グループ化して管理しなくなるがそのような機能は実装される予定はありますか？   | <p>現在は、カテゴリやタイプでの管理をされていますでしょうか？</p> <p>Wishlistにあるかは即答できませんが、Roadmapには特に上がっていない認識です。今後予定があるかはRoadmapにてご案内されますので適宜ご確認ください。</p> <p>■Roadmap：<a href="#">クリックしてリンクへ</a></p> <p>■ACC Ideas：<a href="#">クリックしてリンクへ</a></p> <p>機能追加や改善要望については、FormにもIdeaとして上げていただけます（英語）</p> <p>今後のセミナーでアップデートがあればご案内させていただきます。</p>   |
| ACCで2D図を重ねることができるようになりましたが、ModelCoordinationで2Dを重ねることは可能ですか？   | Model Coordination による干渉チェックのための統合は3D データのみの対応です。  |
| 指摘事項のあるフェーズにおけるアーカイブとして、キャプチャ付きのリストを書き出し保存したいのですが、方法はありますか？基本設計完了時の残指摘。実施設計完了時の残指摘をアーカイブとして管理することは可能ですでしょうか。 | <p>指摘事項のレポートを使用し、未完了の指摘事項を書き出す方法があります。</p> <p>■指摘事項のレポート：<a href="#">クリックしてリンクへ</a></p> <p>書き出されたレポートは記録に残されていきますので、その日の時点での残指摘事項をプロジェクト内で保存することができます。</p>   |

| 質問  | 回答   |
|---|--|
| <p>干渉チェック機能については、NavisworksManageの細かな設定が便利なケースがあります。BIM Collaborate Pro (Model coordination) とNavisworksの使い分けについてヒントがあれば教えて下さい。</p> | <p>Navisworks ならではの細かな設定という点、例えばクリアランスを設定した干渉チェック等でしょうか？ABC Pro での統合は常に最新版のファイルで行われます。なので、モデルの更新頻度が多く、ABC Pro の干渉チェック機能で十分な場合は、ABC Pro での干渉チェックをお勧めします。また、最近のアップデートでは干渉の除外機能などもβ版で公開されています。これらの機能を実際比較の上ご活用をご検討ください。</p> <p>また、トレーニング資料もご用意がありますのでご参考としてください。</p> <p>■Autodesk Construction Cloudを利用した干渉チェックマニュアル作業者編β版.pdf <a href="#">クリックしてリンクへ</a></p>   |
| <p>設備モデルをレブロで作成していた場合でもrevit変換すればBIMコラボレートプロやモデルコーディネーションは機能しますか。</p>   | <p>Rebroの各要素がRebroリンクを使い、Revit要素への変換ができているのであれば、Model Coordination Module での統合や干渉チェック機能の利用が可能となります。</p> <p>■参考記事：<a href="#">クリックしてリンクへ</a></p>  |
| <p>A棟、B棟、C棟を別ファイルで作成し、敷地モデルに外部参照したモデルをACCにUPした際、階部参照データが見られなかったのですが、解決方法はありますか？</p>   | <p>きちんと回答するにはもう少し詳細を把握したいところですが、こちらが参考になるかもしれません。</p> <p>■参考記事：<a href="#">クリックしてリンクへ</a></p> <p>その他の制限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PDFリンク：DesktopConnectorにて関連データのリンクとブラウザ表示については可能ですが、現時点（2024.4.19）では、PDFについては残念ながら、リンク時の表示サポートがありませんのでご注意ください。</li> <li>・2階層先のリンク：リンクは1階層までを表示します。</li> </ul>  |
| <p>データをパブリッシュするためには、パソコンやRevitの立ち上げは必要になるのでしょうか？</p>  | <p>Revitを立ち上げなくても、BIM Collaborate ProのDesign Collaboration からパブリッシュが可能です。但し、アプリ版では対応がないため、パソコンの立ち上げは必要になります。</p> <p>■Revitからパブリッシュする：<a href="#">クリックしてリンクへ</a></p>  |

| 質問   | 回答   |
|--|--|
| 基本的事項で恐縮ですが、Autodesk DocsはBIM360Docsの活用の幅が広がった、という認識は正しいでしょうか。 | はい、正しいです。経緯や差異などに簡単に触れている過去のセミナーがございますのでご確認ください。<br>■過去のセミナー： <a href="#">クリックしてリンクへ</a> |
| Docsでフォルダの表示する時にフォルダ名が長く、表示を手動で広くしているのですが、その表示を保存する方法はあるでしょうか？ | 表示幅を保存する設定は、現状ありません。ACC Ideaへの投稿をお願いいたします。<br>■ACC Ideas <a href="#">クリックしてリンクへ</a>      |